

## 小規模河川における浸水予測の過小評価を防ぐ 予測降水量評価方法

福原隆彰 高見和弥 鎌田慈

局地的な短時間強雨により、河川が氾濫して浸水による被害が発生することがあります。このような災害に列車が遭遇しないようにするため、面的な短時間の予測降水量を入力して浸水・氾濫の発生を評価し、それらの影響範囲を避けた列車停止位置等の解析を行うシステムの開発に取り組んでいます。このシステムでは、小規模河川を解析の対象とする場合、河川の流域面積が狭いため予測降水量と実際の降水量とのずれが浸水・氾濫の発生の評価結果に大きな影響を与えます。そこで、このシステムでの浸水・氾濫の評価結果が過小評価とならないような予測降水量への前処理方法を検討しました。

検討の結果、浸水・氾濫の評価に入力する各格子での予

測降水量としてその周囲の最大値を用いる前処理方法とす  
るときの、降水量の実況値を入力して得られた評価結果に  
対して過小評価とならないような、予測時間と最大値をと  
る範囲との関係を明らかにしました。

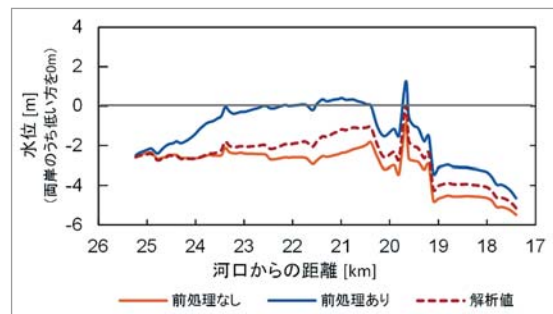


図 降水量データの前処理の有無による浸水・氾濫解析の結果の例（解析値：降水量の実況値を入力して解析した結果）